

2019年8月8日

東急不動産株式会社

## 日本の“はたらく”を、緑でデザインする。「Green Work Style」 緑を取り入れたワークプレイスの効果検証を開始 本社移転を前に、自社の社員で実証実験

東急不動産株式会社（本社：東京都港区、社長：大隈 郁仁）は、植物（＝緑）が持つ力を最大限に活用し、日本の新しい働き方をデザインするプロジェクトとして、「Green Work Style」をオフィスビル事業で推進しています。緑には人にポジティブな影響を与える力があることが研究結果により明らかにされており、当社はその緑の力に着目し、緑を効果的に取り入れたオフィスビルの開発・運営に取り組んでいます。

この度、南青山の本社オフィスにおいて脳波研究のスペシャリストである満倉靖恵氏の監修のもと、緑のあるオフィス環境がもたらす効果について自社の社員を対象に実証実験を行いました。当社はこれまでも、「Green Work Style」の第一弾として開発された「日比谷パークフロント」（所在：東京都千代田区）において緑の効果を科学的に検証する実証実験を行い、開放感のある緑豊かな空間（オフィスビル共用部）での休憩が、疲労感やストレスの低下をもたらすことや、緑が癒しを与える効果があることを確認しました。そしてこの知見を活かした新たなオフィスビルとして、「渋谷ソラスタ」（所在：東京都渋谷区）が本年3月に竣工。当社はこの「渋谷ソラスタ」に本社を移転し、「Green Work Style」として初めてオフィス専有部内で緑を効果的に取り入れたワークプレイスを実現します。

今回の実証実験は、移転前の南青山オフィスにおいて、オフィス執務スペース内で卓上を緑化した場合の変化を測定し、ストレス度や集中度、モチベーション向上への効果を検証しました。当社はこの検証をスタートとして、今後新本社において、緑を取り入れた働き方の効果検証を実施します。オフィス内が全体的に緑化された新本社で、それぞれの機能に合わせて適切に緑を取り入れた環境づくりとその効果を、当社社員が自ら検証します。そしてそこで得られた知見をもとにアップデートされた「Green Work Style」を、オフィスワーカーのよりよい「はたらく」環境づくりの提案へと繋げてまいります。



南青山オフィスでの実証実験の様子

【Green Work Style ウェブサイト】 <https://www.tokyu-land.co.jp/urban/bldg/gws>



## ■ 実証実験の概要

実証実験	
目的	植物のある執務スペースで業務を行うことが、生産性やモチベーションの向上に与える影響を検証
対象者	20～40代の男女、当社社員30名（1グループ6名×5グループ）
実施場所	東急不動産株式会社 南青山オフィス
収集データ	脳波、作業用タスクの回答数や正答率、主観評価（アンケート）
利用機器	感性アナライザ（Mind Wave Mobile BMD,iPad）※
内容	作業用タスク中の脳波測定、および作業後のアンケートを実施。 緑あり・なしの執務スペースにおいて、緑がどのような影響を与えるか検証。

### ※感性アナライザ 概要

慶應義塾大学満倉教授と電通サイエンスジャムが共同で開発した簡易型脳波測定感性評価キットで、今までの脳波計測では不可能だった「いつでも・どこでも・誰でも・簡単に」をリアルタイムに実現しました。

## ■ 実験結果 ～緑のある開放的な空間がもたらす効果について、Green Action に基づいて検証～

緑には人にポジティブな影響を与えることが研究結果により明らかにされています。当社はその緑の力に着目し、効果的にオフィスに取り入れることで理想的な働き方を実現するための「Green Action（緑の力をオフィスに取り入れるための5つのアクション）」を、「Green Work Style」内で定めています。今回の実証実験では、この「Green Action」の、「ストレス軽減」「生産性向上」「モチベーション」についての検証を行いました。



### はたらく人のストレスを軽減する

緑のある執務スペースの方が、作業開始前の  
ストレス度が12.3%低く、快適度が6.9%高い。



従業員にとって、ストレスが低く、継続的に従事できる環境を企業が整えることは、人材不足の社会の中で、従業員からも選ばれる会社となる上でも重要な要因となっていくのではないかと考えられます。





## はたらく人のひらめきを生み出す

緑のある執務スペースでは、タイピング時の集中度が高く、作業生産性が高まり、より多くのひらめきをもたらす。

実証実験



これは、従業員一人当たりの生産性向上に貢献したと言え、ひいては、企業の売上にも貢献すると考えられます。



## はたらく人のモチベーションを高める

緑のある執務スペースでは、単調作業中の興味度・ワクワク度が緑なしの場合に比べて高く、モチベーション向上につながると考えられる。

実証実験



働き方改革の中で、一人ひとりがやりがいを持って働くことが課題とされる現代で、デスクの緑化によって働く姿勢に作用することは、離職率の低下等に貢献できる可能性も考えられます。

P 値について

実験で得られた 2 条件の差について、P 値が 10%以下(P<0.1)の場合有意傾向があるといえ、P 値が 5%以下 (P<0.05) の場合は有意な差と言える。



## ■ 監修者・満倉 靖恵 氏のコメント

『オフィスの働き方改革は、緑から。

仕事の生産性だけでなく、やる気を高め、働きやすさを実現する緑の価値に再注目。』

既存のオフィスにおいて、初めからオフィス全体を緑化することはなかなか取り組み難いものです。しかし、今回の実験で、卓上のみの緑化を行った状況でも、働く人にさまざまな良い影響を与えることがわかりました。

例えば、仕事の生産性です。一部を緑化した環境では、集中度と作業の正確性が高まりました。一人ひとりの従業員の生産性向上によって、企業の売上アップにも期待できます。それだけではなく、作業に対する興味度やワクワク度も高まっていたことに注目すべきでしょう。効率が改善されるだけでなく、本人が主体的に作業に取り組めるということは、仕事に対するやる気アップや離職率の低下にもつながるはずです。

そして、労働時間の長期化で問題視されがちな精神的な負荷や目の負担においても、主観的な評価で改善が見られました。人生 100 年時代と言われる昨今、働き続けやすい環境を実現することは、人手不足が進む日本においてますます重要な要素となっていくでしょう。これからは働く人からも選ばれる会社であるために、意外に知られていない緑の価値にもう一度注目していただければと思います。

脳波研究のスペシャリスト

満倉 靖恵 氏

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授・博士（工学）／電通サイエンスジャム CTO

専門領域：生体信号処理、脳波解析、画像意味解析、信号処理

【研究内容】

信号処理、機械学習、パターン認識、人工知能、統計処理などの技術を用いて、生体信号や音声、画像から必要な情報を抽出する研究に従事。17年以上の年月を重ね、脳波から歓声を把握するアルゴリズムを開発。

